



スーパー グローバル ハイスクール

# 佐高 SGH通信 2018

No. 15 (平成30年10月19日発行)

## 田中正造記念賞の最高賞(市長賞) に輝く科学部



市長から表彰を受ける亀山君



表彰後の科学部のプレゼンテーション



普段の野外調査の様子

2018年10月13日(土)、佐野市文化会館で「**田中正造の日 環境フェスタ**」が開催され、田中正造記念賞の最高賞(市長賞)が、佐野市長から科学部に授与されました。

佐野市は、環境問題の先駆者である田中正造の偉業をたたえ、全国に広く知ってもらうとともに、環境保護活動を推進することを目的として、平成25年から、生活環境の保全、自然環境の保護、低炭素・循環型社会の推進に積極的に取り組み、顕著な成果を挙げた団体を表彰しています。この賞には、毎年、全国から多くの団体が応募している**全国レベルの権威ある賞**ですが、**市内から大賞が選ばれたのは、佐野高校が初めてです。**

☆科学部が大賞に選ばれた理由(佐野市のHPに掲載)

外来種対策や希少動物の調査研究を通して、地域の生物多様性の保全に取り組むとともに、自然環境の保護を目的とし、平成20年の創部以来活動している。

これまで研究が進んでいなかった外来種のカメの成長や産卵時期を研究し、大繁殖の要因を探究している。また、希少種であるトウキョウサンショウウオの保全のため、遺伝的多様性の研究や、産卵地の環境保全に取り組み、優れた成果を上げている。

**地域、大学、各団体等と連携を図りながら活動を実施**しており、今後の生物多様性の保全や自然環境保護の推進において、さらなる活躍が見込まれる。同校は「田中正造型」グローバルリーダーの育成を目標としており、次代を担うリーダーの輩出を期待する。

☆部員のコメント

◎部長(松澤あさひさん、高2)

田中正造記念賞で大賞という素晴らしい賞をいただいたことを本当に嬉しく思います。佐野に住む高校生として、地道な活動を行ってきた積み重ねが、今回の賞に結び付いたと感じています。これからも、受賞の名に恥じぬよう、精いっぱい研究を行ってまいります。

○副部長(亀山豪太君、高2)

今回の受賞は、現在の科学部だけでなく、創部以来10年間にわたって引き継がれてきた活動に対して、評価していただいたもので、伝統の重みを感じています。また、多くの方々に支えられながら、社会に貢献できる研究を行うことが出来たのは、本当に幸せなことであると実感しています。



# 田中正造賞大賞に 佐野高科学部輝く



## トウキョウサンショウウオ調査

佐野市が全国公募した田中正造記念賞の大賞「佐野市長賞」に地元の佐野高校科学部が選ばれた。同好会として発足した「二〇〇八年以来、外来種カメの研究や絶滅危惧種トウキョウサンショウウオ」写真(佐野高校科学部提供)の生息状況調査など十年間の地道な活動が認められた。十月十三日に市内で表彰式が行われる。(梅村武史)

同賞は、日本初の公害事件とされる足尾鉍毒事件を明治天皇に直訴した政治家田中正造にちなみ、正造の出身地、佐野市が一二年から主催する。全国を対象に自然環境の保護や研究、循環型社会の推進などに顕著な成果を上げた団体を表彰しており、今回は都内や北陸、近畿などの八団体の応募があった。

同校の科学部員は現在十八人。一〇年から部に昇格し、クサガメなどの生態や分布調査を長年続けるとともに、近年はトウキョウサンショウウオに関するフィールドワークに力を入れている。両生類で体長八〜一二センチほど。県南地域に比較的多く生息している

### 産卵数減少 データで裏付け

が、環境省レッドリストで絶滅の危険が増大している「絶滅危惧Ⅱ類」に指定されている。

一五年以降、部員を挙げて県南、県東の産卵地十九カ所で卵嚢(卵を包む袋)の数を調査、遺伝子分析などを実施してきた。栃木市宮町の調査地点では、四年前の六十七個から今年はゼロになるなど産卵数の減少傾向をデータで裏付けた。

部長を務める松沢あさひさん(二七)は「トウキョウサンショウウオの幼生を見ているとウーパールーパーみたいでかわい。将来、生物学者になりたいので夢中で研究しています」。副部長の亀山豪太さ

### 「身近な絶滅危惧種 もっと知りたい」



田中正造記念賞大賞に選ばれた佐野高校科学部＝佐野市で

ん(二七)は「身近にいる絶滅危惧種のことをもっともっと知りたい。継続して活動が続けていきます」と話していた。表彰式は十月十三日午後二時二十五分から環境フェスタ会場の同市浅沼町の市文化会館小ホールで行われる。